

## 〈学術研究集会傍聴記〉

## 第26回日本バイオメカニクス学会大会傍聴記

秦 啓一郎<sup>1,2</sup>Keiichiro HATA<sup>1,2</sup>

2020年9月18日から20日までの3日にわたり、26回目となる日本バイオメカニクス学会大会が開催された。本来であれば、福岡大学で開催される予定であったがCOVID-19の影響によりオンラインでの開催に至った。しかしながら、オンライン開催という不利を感じさせず、その利点が十分に活かされた学会であった。特に基調講演では、海外で活躍する6名の研究者の貴重な講演を聞くことが出来、海外の動向を知る良い機会となった。

なかでも池上康男先生の基調講演は、デジタルカメラを用いた二次元的な計測または、カメラ複数台による三次元的な計測に関する基礎的な内容から測定に際する注意事項など技術的な内容に至るまで事細かな内容であった。バイオメカニクス研究における動作解析では、カメラを用いた計測は基本的かつ極めて重要な位置付けであり、とても興味深い内容であった。加えて、私は本学会で「エリート競歩選手の三次元動作解析」の題目で演題発表を行ったが、その測定内容に関連することもあり、非常に勉強になり三次元計測への理解を深めることが出来た内容であった。また、その他にもいくつかの基調講演が開かれ、Toni Arndt氏やUwe G. Kersting氏の講演では、足の捻挫などのスポーツ障害に対する新たなスポーツテクノロジーによる改善策、対処法に関する研究内容が挙げられた。この研究で用いら

れた方法は、室内シューズに滑り止めの様な素材を装着するものであり、地面との接触面が少なく抵抗が小さいゴム素材をシューズの側面に貼付することにより捻挫時の足部の捻りを抑制することを検証するものであった。さらに、Wolfgang Potthast氏にはスポーツテクノロジーと競技パフォーマンスとの関係についての講演をして戴き、身体運動におけるスポーツテクノロジーの発展について考えさせられる有意義なものであった。

一般発表および若手奨励賞の発表は、国際・奨励賞・一般発表・ポスター発表の4つのセッションに別れて発表が行われた。カメラ計測における空間座標を決定するためのキャリブレーション方法に関する基礎的研究から、陸上競技の走・投擲・競歩種目やサッカー、野球、バレエなど様々なスポーツ競技における動作解析、力学的エネルギーの解析などの応用研究が盛んに行われていた。また、ランニングシューズや自動車の自動運転に伴う生体の反応に関する研究など幅広い興味を引かれる研究内容が高いレベルで行われた。

例年、学会期間中に行われる懇親会は多くの研究者と話し合える数少ない場であるが、本年度の学会ではオンライン開催ということで、その機会は得られなかったことは非常に残念な点である。しかしながら、本学会に参加したことで得られた知見や研究意欲はオンラインであろうが、会場であろうが変わらず素晴らしいものであった。このような素晴らしい学会に学内共同研究の助成のもと研究課題を発表出来たこと、そして、日頃より熱心なご指導をくださった柳谷登志雄先生をはじめ本学の先生方に感謝の意を述べ、本傍聴記の結びとする。

<sup>1</sup> 順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科 博士後期課程1年  
Graduate School of Health and Sports Science,  
Juntendo University

<sup>2</sup> 順天堂大学スポーツ健康医科学研究所  
Institute of Health and Sport Science & Medicine,  
Juntendo University